

はじめに

■本マニュアルの用途・目的

このマニュアルは、全国の農作業安全の指導者のみなさんを対象に、農作業安全の地域活動を始め、活発化を図ろうとする際に参考としていただくよう、作成したものです。改訂版では、データを最新のものに更新するとともに特にこれから活動を始めようとする小集団などが直ちに実践できるよう「まずやってみよう」を中心により具体的な資料を掲載することに努めました。

『地域活動』とは？

このマニュアルでいう『地域活動』とは、集落や専門部会など、小集団における農作業安全の活動を意味します。

なぜ『小集団』による活動なのか？

農作業事故を減らしていくには、農業者一人ひとりの安全に関する意識・知識を高めていくことがポイントとして挙げられます。

人と人のつながりを生かすことができる『小集団』での活動は、農業者一人ひとりに対し、漏れなく効果的に働き掛け・啓発することができると考えられるからです。

このマニュアルは、自治体やJAの職員、集落・部会のリーダーなど、さまざまな組織・団体、階層の方が手にすると思いますが、

- ① 自治体やJAの方は、小集団において農作業安全に自主的・積極的に取り組んでもらうために何をすべきか？
- ② 集落・部会の方は、営農・生活を共にする仲間が農作業事故に遭わないようにするために何をすべきか？

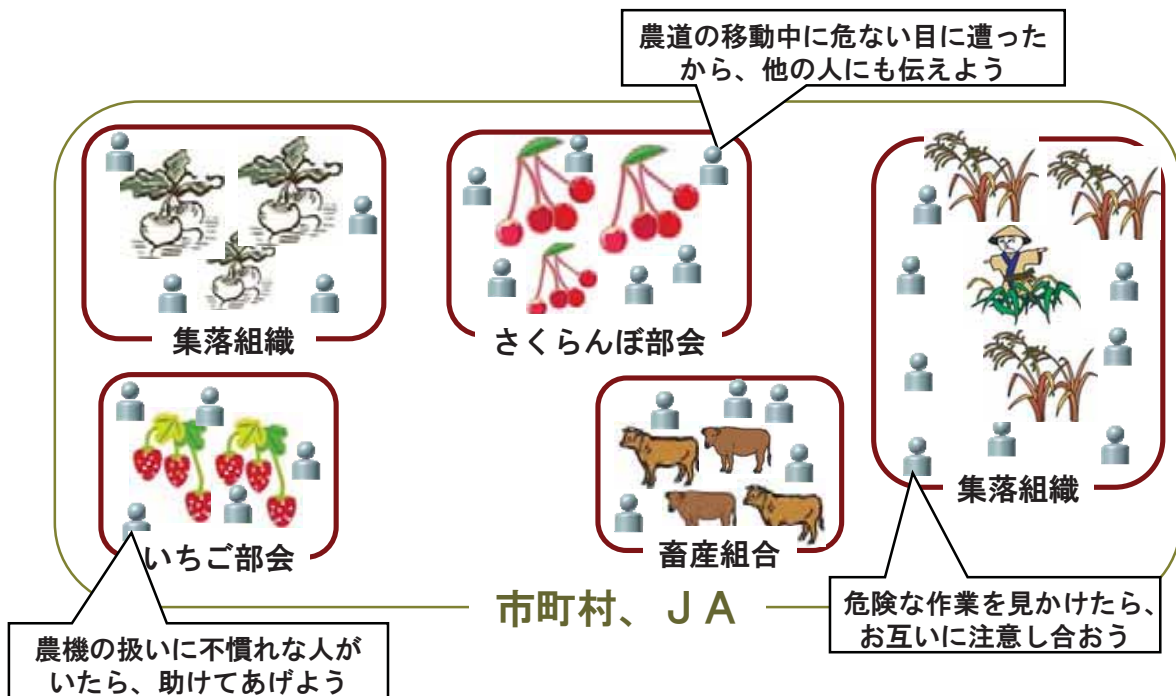
という目線で読んでいただきたいと思います。また、読んだ内容をぜひ実践していただきたいと思います。

なお、活動のやり方、進め方は地域の特性によって千差万別ですので、本マニュアルの記載内容に縛られる必要はありません。また、本マニュアルの記載事項すべてがみなさんにとっての正解になるとは限りません。答えを見つけるのはあくまでもみなさんです。本マニュアルはその手助けをするに過ぎません。

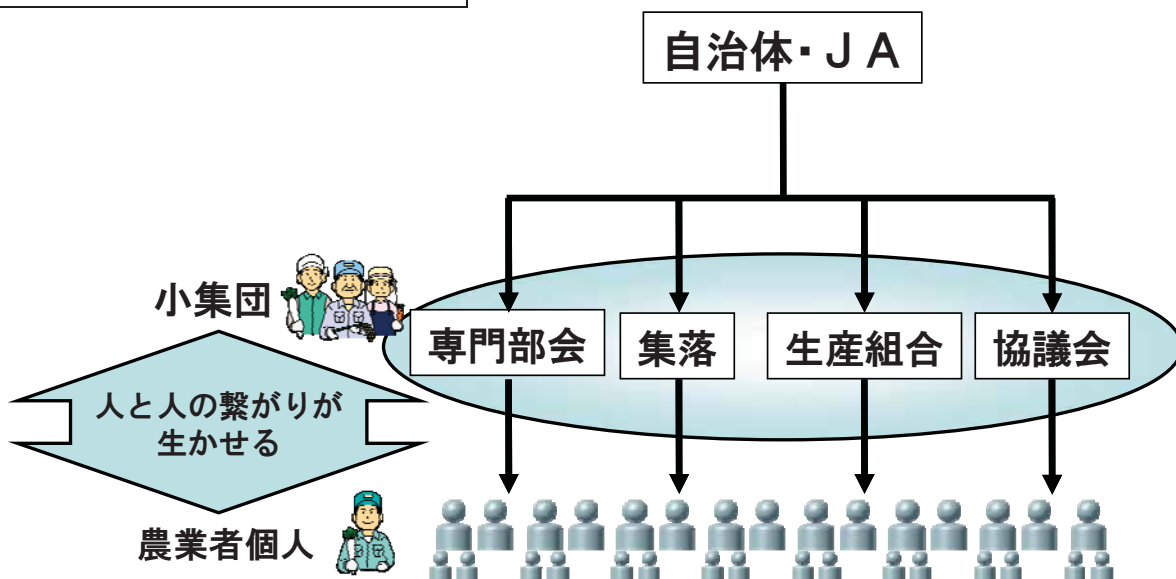
ただ、指導者のみなさんに一つお願いしたいのは、まずやってみようという発想で、行動を起こして欲しいということです。

地域活動とは？

「地域活動」とは、地域で既に組織されている集落、専門部会、生産組合などの小集団の単位で、不安全な作業をお互いに注意・指摘し、事故につながる情報を共有し合うなど、地域で一丸となって農作業事故の防止に取り組むことを意味します。



なぜ『小集団』による活動なのか？



まずやってみよう！

地域活動の目的

事故の発生を予防すること

農業生産や生計を維持できるように
事故に備えること

地域の営農を守る

農業者自身が考え・行動する事が大切

目的の達成に向けた 地域活動の理想的な進め方

事故の傾向を把握する

- 事故情報を収集する
- 収集した情報を整理して、事故の傾向を把握する

農作業安全活動を推進する
体制を作る

- 地域を率先して引っ張るリーダーを決める
- リーダーをサポートするメンバーを決める

活動を実践する

- 活動目標を決める
- 活動手段を決める



「活動を実践する」までの道のりは
長いなあ・・・

まずやってみよう！

最初の2つは置いといて
やれることからやってみよう



事故の傾向を把握する

農作業安全活動を推進する
体制を作る

まず活動してみよう

👉 1章の内容



- ① 全国で頻繁に起きている事故から対策しよう
- ② 出来ることからやってみよう

1

乗用トラクター、歩行型トラクター、運搬車で重大事故が集中的に起こっているらしい



特に注意すべきことを農業者に徹底し、
事故を予防しよう！

2

事故の予防には、機械条件、作業条件、作業者にそれぞれ対策がある



座談会で安全の話題を盛り込むなど、
簡単なことからやってみよう！

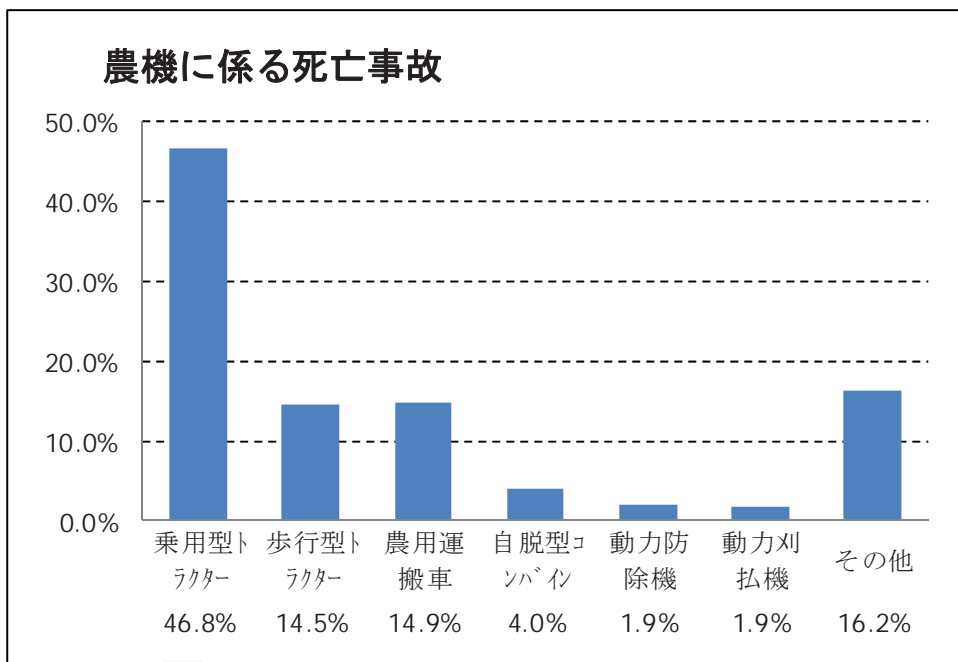
まずやってみよう！

5ページの

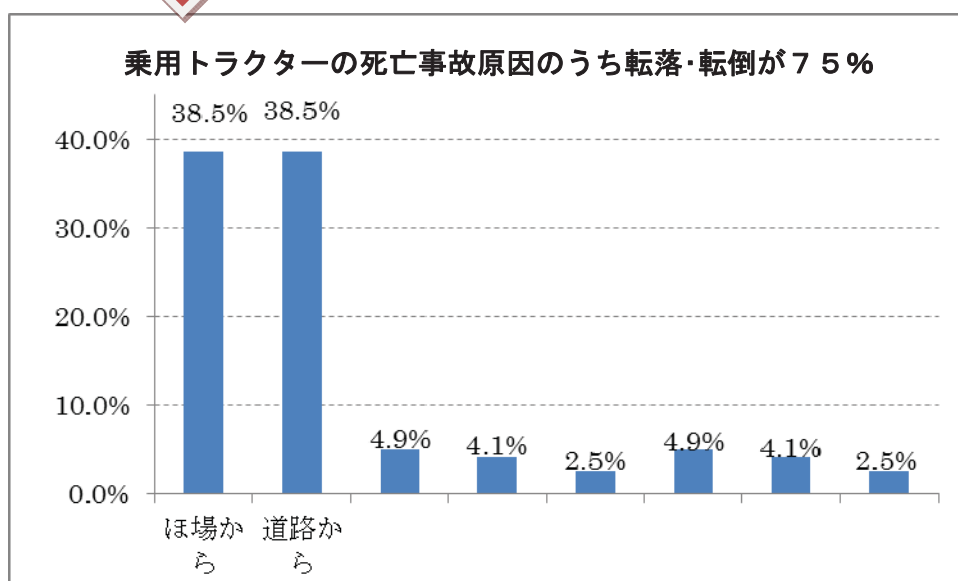
①

乗用トラクター、歩行型トラクター、運搬車で重大事故が集中的に起こっているらしい

平 17～21 年の死亡事故件数から



乗用トラクターの死亡事故内訳



出典：農林水産省 「平成 21 年に発生した農作業死亡事故の概要」より

まずやってみよう！

5 ページの

①

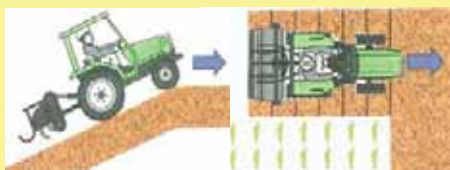
安全キャブ・フレームのあるトラクターを使用し、シートベルト着用を徹底しよう！



安全キャブ・フレーム	合計 (%)	うち死亡 (%)	うち負傷 (%)
なし	35 (100)	33 (94)	2 (6)
あり	17 (100)	8 (47)	9 (53)

注：転落・転倒事故の際に安全キャブまたはフレームの有無が明らかに関係する 52 件を分析
2012. 10 農林水産省技術普及課生産資材対策室資料

作業環境を確認し、危険性に配慮しよう！



直角の向きで入退出しよう。



危険が潜む場所は草刈りで見通しをよくしよう。

ブレーキペダルの連結を確認しよう！



作業が終わったら、昇降路を上がる前にブレーキ連結ロックをかけよう

まずやってみよう！

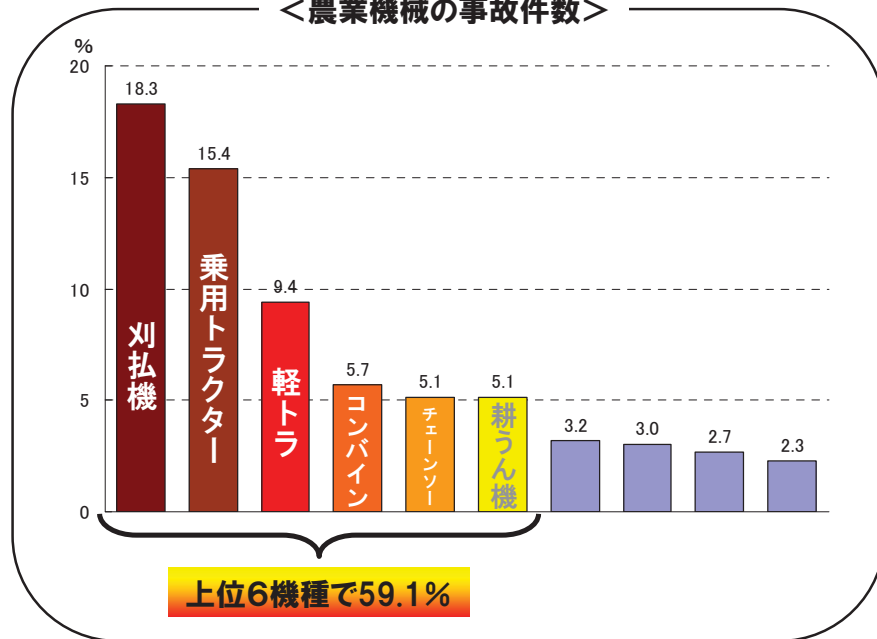
5 ページの

1

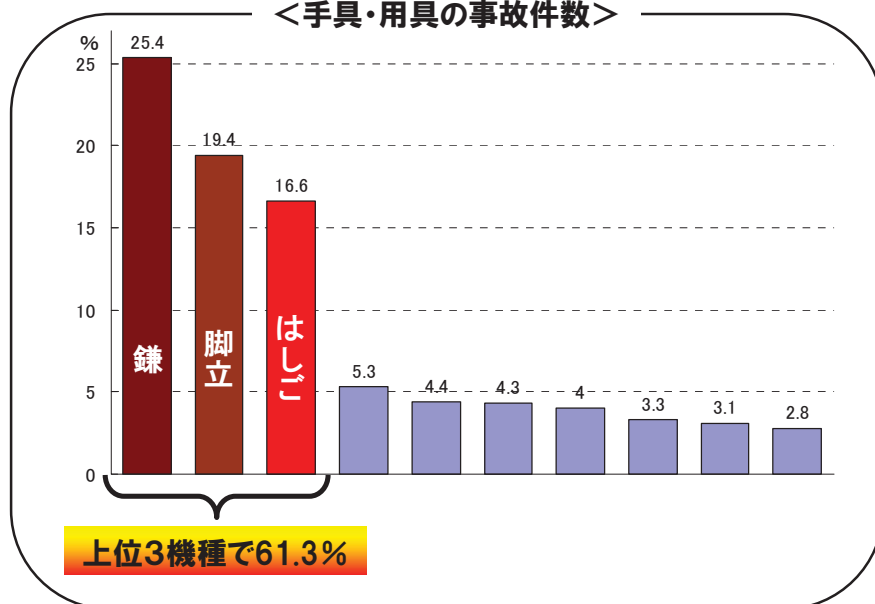
集中的に事故が起きている 農業機械、農機具は何か？

平成12年度 1道8県での農作業事故 約1万件の分析結果を元に

<農業機械の事故件数>



<手具・用具の事故件数>



【平成12年度 日本農村医学会 全共連委託研究による実態調査より】

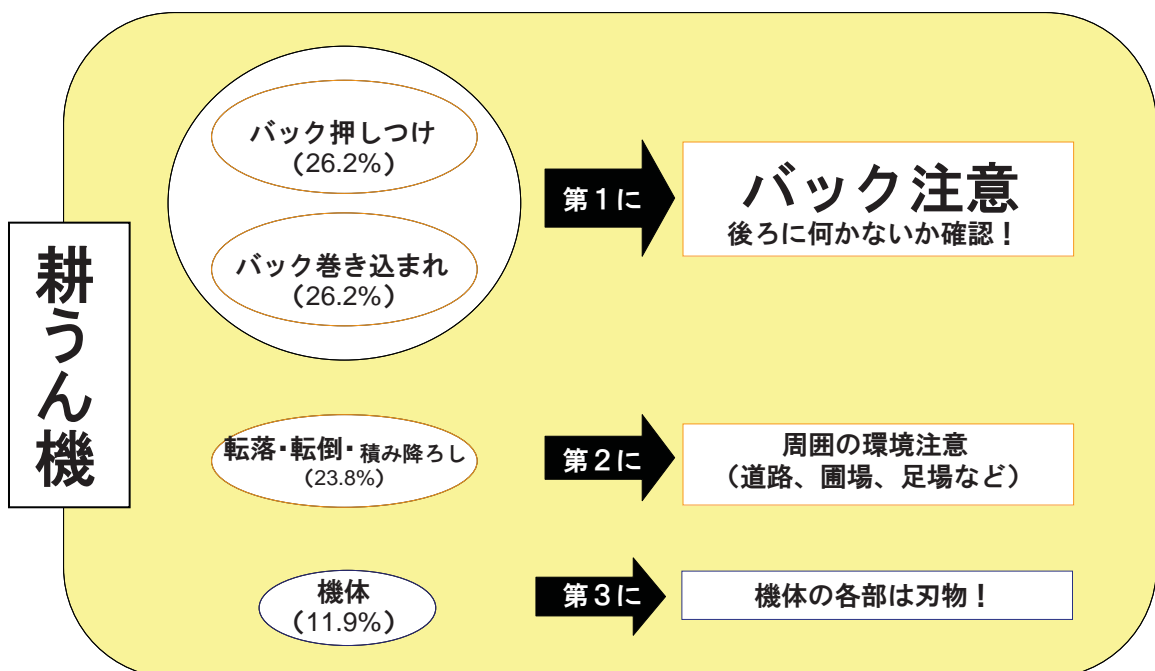
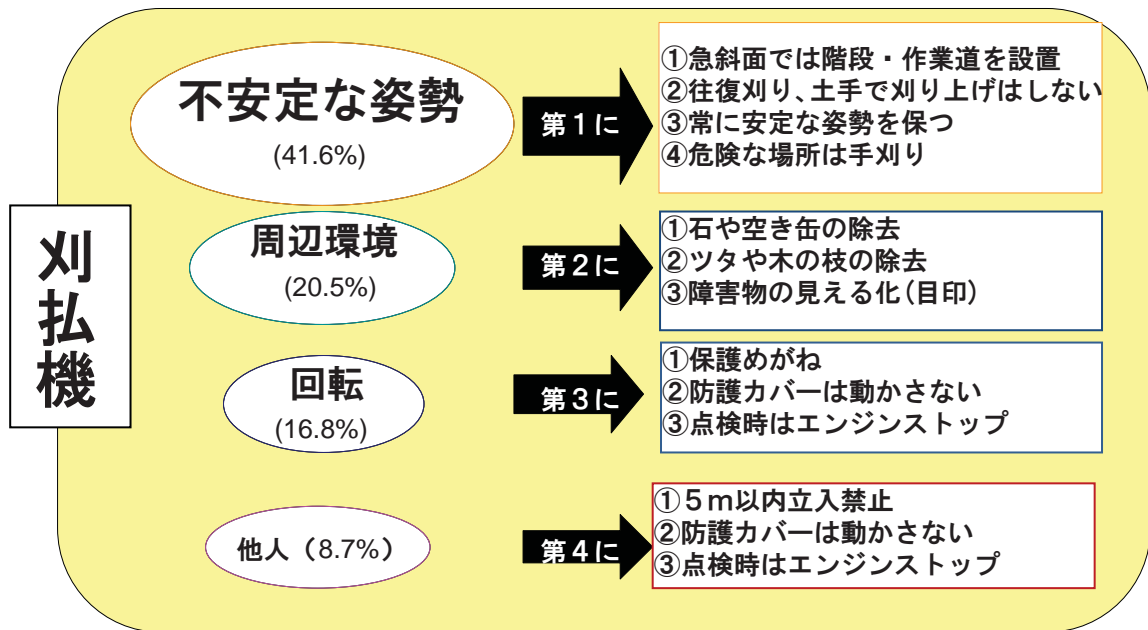
まずやってみよう！

5ページの

①

特に注意すべきこととは何か？

例えば、刈払機、耕うん機の事故様態分析結果を元に



【富山県における事故（2000年～2009年） 富山県農村医学研究会】

まずやってみよう！

5 ページの

②

特に注意すべきことを 農業者に徹底するには？

座談会での話題提供

座談会で安全の
話題を出そう

歩行型トラクターは、
後進時の事故が多いよ。
似たような経験はある？

先週危ない目に遭った
ばかりだよ！
気を付けないといけないね。



啓発資材の活用

自治体やJAから配布される
チラシ、パンフレット等を
活用しよう

先月配られたチラシに
刈払機の「チェックリスト」
が載っていたよ。
やってみた？

見逃してたなあ。
次回の座談会で
みんなでやってみようか。



講習会の活用

自治体やJAが開催する
講習会への参加を促そう

来月、安全講習会が
公民館で開催されるよ。
都合が良ければ
一緒に行かないか？

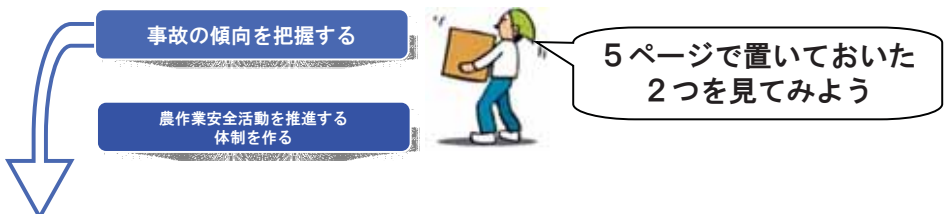
一度も行ったことないけど、
時間は取れそうだし、
行ってみるか！



安全について**対話**しよう！
安全イベントに**参加**しよう！

日常のコミュニケーションの中で、
「安全」についての対話を
増やすことを意識してみよう！

まずやってみよう！



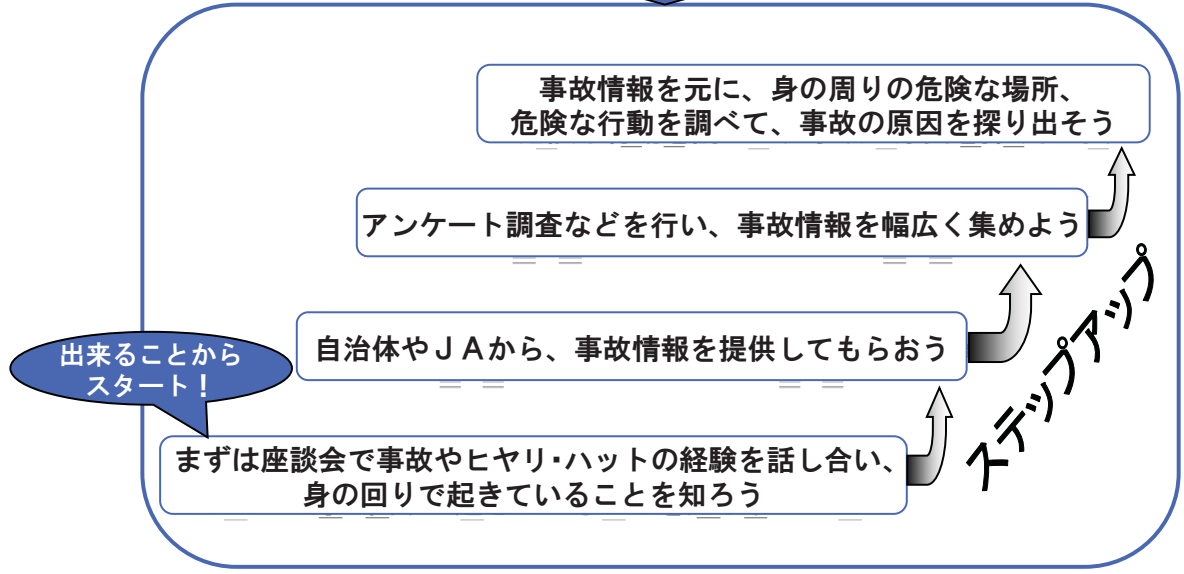
事故情報を集めてみよう

2章の内容

活動の成果を高めるカギ！



まずやってみよう



まずやってみよう!

事故の傾向を把握する

農作業安全活動を推進する
体制を作る



5 ページで置いておいた
2つを見よう

体制を作ってみよう

3章の内容



体制作りって
大変そうだなあ



リーダーにふさわしい
人はいるかなあ



まずやってみよう

出来ることから
スタート!

まずは自分たちの地域の長に、
暫定的なリーダーになってもらおう

農機具や農作業に詳しい人を
リーダーのサポート役として指名しよう

自治体やJAの職員にも
サポート役として加わってもらおう

必要に応じて、地域の長以外の人から
改めてリーダーを選定しなそう

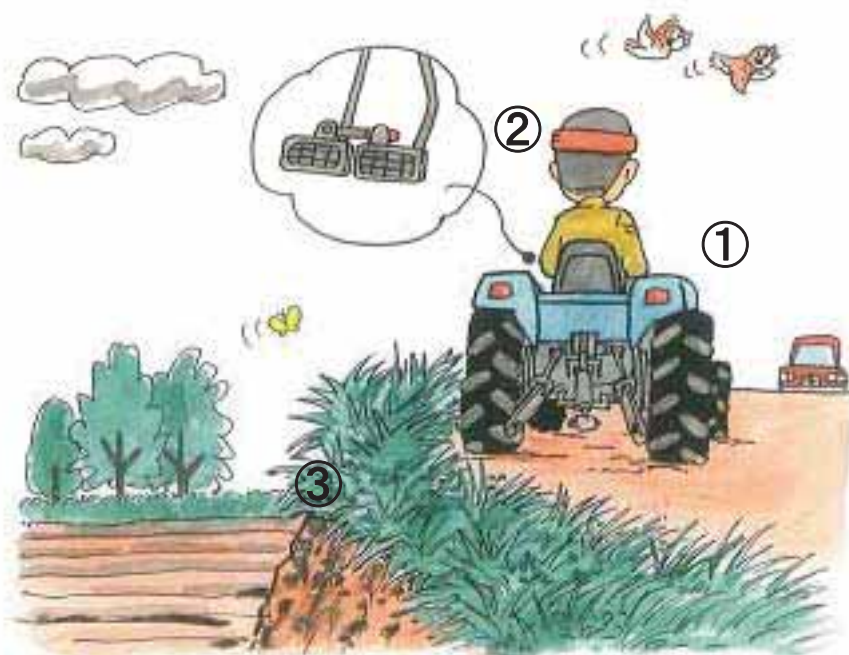
ステップアップ

まずやってみよう！ 実践参考資料集(1)

危険(安全作業の基礎知識)を知ろう(1)
座談会等での話題としてすぐ使える例として

乗用型トラクター

乗用型トラクターで道路を移動しています。どんな危険がありますか。



答え

- ①安全キャブ・フレームのないトラクターである
- ②はちまきは危険、ヘルメットをかぶる。
- ③路肩を踏み外す恐れがある。路肩に寄りすぎない。路肩がわかるよう草刈りをする。

出典：農林水産省農作業安全啓発ソフト(平成21年3月)より

http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/tool/index.html

危険(安全作業の基礎知識)を知ろう(2)
座談会等での話題としてすぐ使える例として

歩行型トラクター

真夏のハウス内で耕耘をしています。ハウスの隅まで耕したいので、バックしようとしています。
どんな危険がありますか。



答え

- ①ベルトカバーを外したまま作業している。
- ②後進発進時にハンドルが跳ね上がり支えられず転倒の危険がある。クラッチをつなぐときはエンジン回転を下げ、ゆっくりとクラッチをつなぎます。
- ③熱中症の恐れがある。換気を良くして、水分補給に心がけましょう。

出典：農林水産省農作業安全啓発ソフト(平成21年3月)より

http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/tool/index.html

危険(安全作業の基礎知識)を知ろう(3)
座談会等での話題としてすぐ使える例として

コンバイン

手刈り稲の脱穀をしています。どんな危険がありますか。



答え

- ①軍手をしている。軍手をしているとフィードチェンに巻き込まれる恐れがあります。
- ②止水栓の近くで作業しているので、つまづく危険があります。補助作業者がつまづくことのない場所で作業しましょう。
- ③大量の稲を抱え運搬しており、前が見えない状態で歩くことは危険です。

出典：農林水産省農作業安全啓発ソフト(平成21年3月)より

http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/tool/index.html

危険(安全作業の基礎知識)を知ろう(4)
座談会等での話題としてすぐ使える例として

刈払機

水田で刈払い作業をしています。どんな危険がありますか。



答え

- ①飛散防護カバーを外して作業している
- ②空き缶などの障害物が残されている
- ③草の生えた法面は足元が滑りやすくなっています。
足を滑らせることのないような履物を使いましょう。

その他、

- ①往復刈りはしない
- ②斜面では刈り上げはしないーことも重要です

出典：農林水産省農作業安全啓発ソフト(平成21年3月)より

http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/tool/index.html

まずやってみよう！ 実践参考資料集(2)

座談会等ですぐ活用できるチラシの例(1)

自脱コンバインの事故に関する 安全対策のポイント

[都道府県事故情報(平成22年4月～23年3月)詳細分析結果]

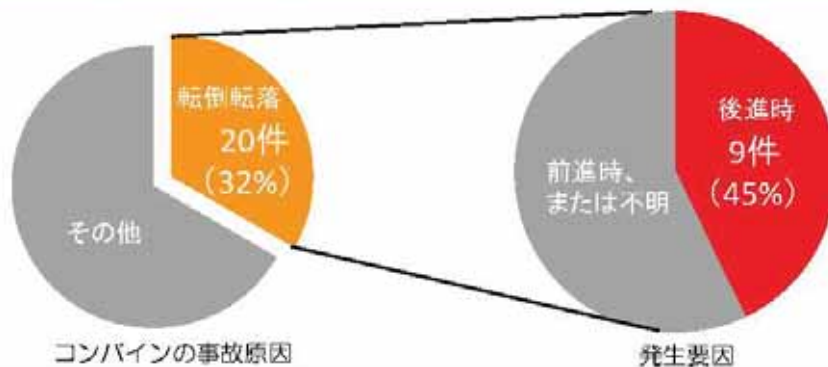
①後進時は、より慎重に運転しましょう！

コンバインの事故で最も多いのが、**転落・転倒事故**です。
特に、**後進時**に事故が多く発生する傾向があります！



○コンバインの転落・転倒による死傷事故

転落・転倒事故20件のうち、少なくとも9件は**後進時**に発生！



【ここをチェック】

コンバインの後進時…



後方が見えにくい
ため、危険！



**後進時は
特に注意！**

コンバインは、トラクター以上に運転席
から見えない死角が多い！

いつも気を
つけている



今後もっと
気をつける



- 畦畝や路面の凸凹等による転倒・転落事故に十分注意しましょう。
- 補助作業者は、コンバインの死角での作業に十分注意しましょう。

進行方向の安全を十分に確認し無理のない運転をしましょう。

② 納屋等からの出入り時は、十分注意しましょう！

コンバインの挟まれ事故は、**納屋等からの出入り時**に梁と挟まれることによっても多く発生しています！



【ここをチェック】

狭い納屋からの出入り…



声かけ・合図



挟まれ事故に
注意！

挟まれ事故で、
納屋の梁に挟まれ
死亡したケースも！



狭い場所での作業は、補助作業者との声かけや合図を決めておく等、周囲の安全を確認しながら作業を行いましょう。
また、作業者自身も前方不注意などには十分気をつけましょう！

③ 巻込まれによる負傷事故に注意しましょう！



コンバイン巻込まれ事故は、**点検整備・清掃中**に多く発生しています！
そのうち、**エンジン非停止**が事故要因となるケースが多い状況です。

【ここをチェック】

点検整備・清掃時…



手こぎ作業時…



巻込まれ事故に
注意！

巻込まれ事故は、
点検整備・清掃時
と手こぎ作業時で
発生！



点検整備・清掃作業では、エンジンを停止しましょう。
手こぎ作業は、適切な服装で機体の内側に手を入れないようにしましょう。

乗用型トラクターの事故に関する 安全対策のポイント

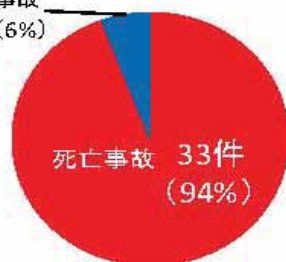
[都道府県事故情報(平成22年4月～23年3月)詳細分析結果]

①安全キャブ・フレームのあるトラクターを使用し、シートベルト着用を徹底しましょう！

○安全キャブ・フレームの有無による事故割合

安全キャブ・フレームのないトラクターで事故を起こした場合、結果として亡くなっている方が多くなっています。

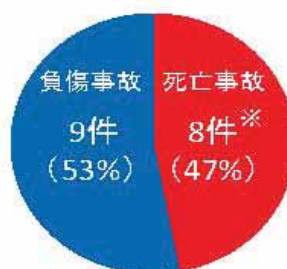
負傷事故
2件(6%)



安全キャブ・フレームなし

負傷事故 9件
(53%)

死亡事故 8件※
(47%)



安全キャブ・フレームあり

※ 安全キャブ・フレームありの死亡事故(8件)についてみると、うち5件はシートベルト未着用(推定を含む)。

安全キャブ・フレームのあるトラクターでもシートベルトを着用しなければ、安全域の中に身体が固定されないため、転倒した際に身体を守ることはできません。



【ここをチェック】



+



フレーム付きトラクターでのシートベルト着用を徹底しましょう。

いつも気をつけている

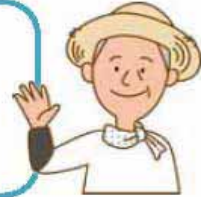


今度もっと気をつける



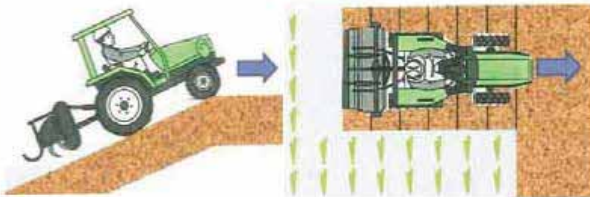
②作業環境を確認し、危険性に配慮しましょう！

転倒が発生している場所としては、ほ場から出入りする際の傾斜やほ場の端から法面に転落するケースが数多く報告されています。以下の点に注意し、事故を起こさない環境作りを心がけることが重要です。



【ここをチェック】

ほ場への進入路は、路肩等を整備しましょう！



作業機を下げて、傾斜に対して直角の向きで入退出しましょう。

いつも気をつけている
✓

今後もっと気をつける
✓

【ここをチェック】



危険が潜む場所は草刈りで見通しをよくしましょう。

いつも気をつけている
✓

今後もっと気をつける
✓

③ブレーキペダルの連結を確認しましょう！

転落・転倒事故の多くは操作上のミスが伴うものと思われます。ほ場から出たところでの事故では片ブレーキによる事故などが考えられます。



【ここをチェック】



作業が終わったら、ほ場を出る前にブレーキを連結しましょう。

いつも気をつけている
✓

今後もっと気をつける
✓

本マニュアルの構成

本マニュアルでは、各地域の指導者のみなさんにとにかく行動を起こして欲しい、という思いから、4ページに示した「理想的な地域活動の進め方」の最後のステップである『活動を実践しよう』のパートからスタートしています。

1. 地域活動の実践

農業者一人ひとりに安全を更に意識してもらい、これまでの習慣や身の回りの環境を改めて見直してもらうために、どんな活動をしたらいいか考えよう。

2. 農作業事故の傾向把握

自分たちの地域で、どれくらいの数の事故が発生しているのか、どのような事故が数多く発生しているのか、調べてみよう。

3. 推進・協力体制づくり

地域で農作業安全活動を盛り上げていくために、どんな体制・メンバーで取り組んだらいいか考えよう。

4. 地域活動の管理

地域活動を実効的・継続的に推進するための管理のポイントをおさえよう。

5. モデル地域の活動紹介

自治体、JA、小集団が、どのように農作業安全に取り組んでいるのか、参考にしてみよう。

■マニュアルの読み方

このマニュアルは、自治体、JA、集落組織、専門部会など、さまざまな組織・団体の方に読んでいただくことを想定していますが、それぞれの組織・団体が主体的に取り組むべき活動内容はさまざまです。

本マニュアルの見出しには、次のような表示を付して、主に、誰に読んでいただきたい内容であるかを示します。

<読み手のマーク>

 **共通** :全ての組織・団体の方に読んでいただきたい内容

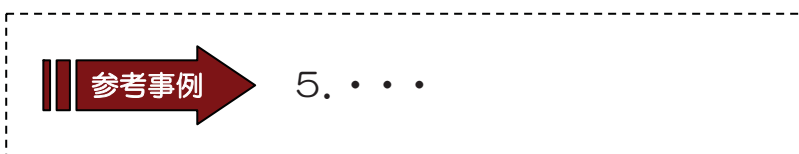
 **自治体・JA** :主に、自治体やJAの方に読んでいただきたい内容

 **小集団** :主に、集落・部会など、小集団の方に読んでいただきたい内容

■モデル地域の参考事例

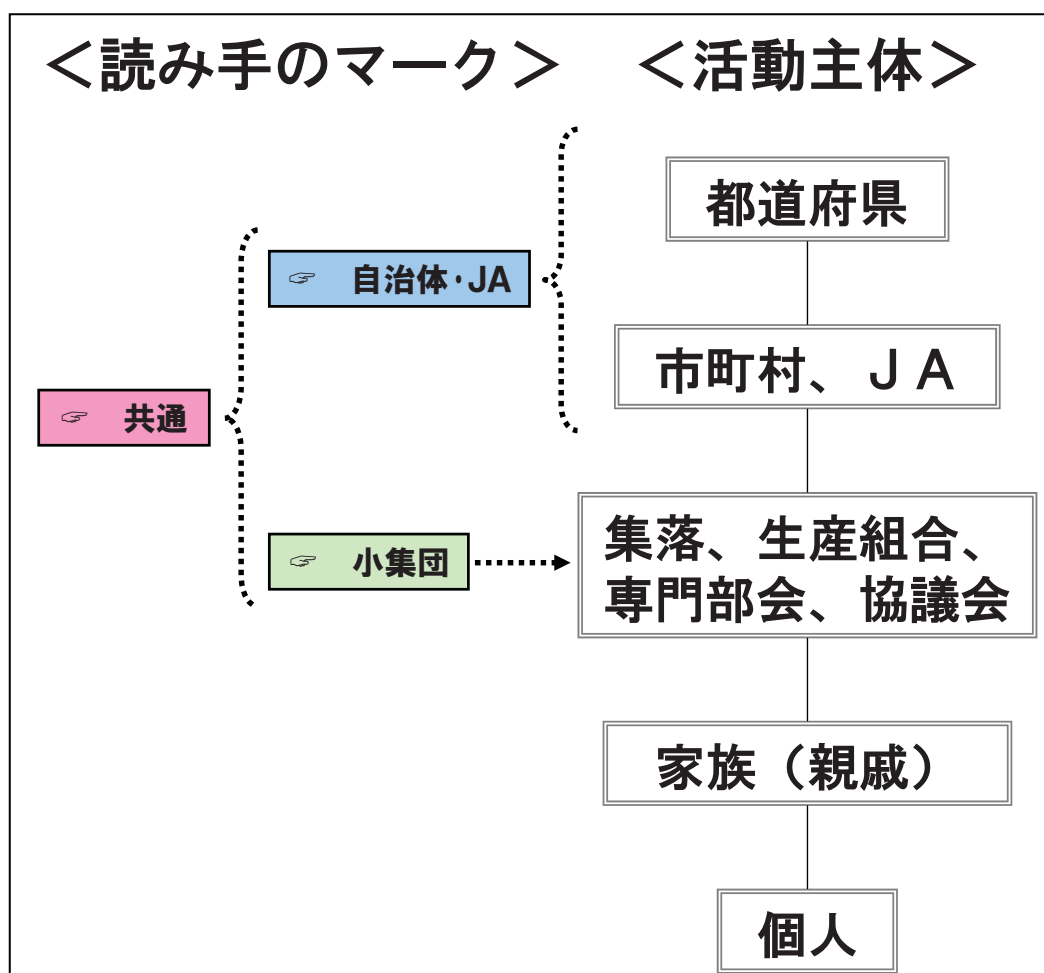
本マニュアルの作成にあたって、農作業安全に取り組んでいる／取り組もうとしている団体や自治体を「モデル地域」として募集し、各モデル地域の活動（80ページ～）を参考にしています。

以下のマークは、本マニュアルの記載内容に関連する取り組みを行っているモデル地域を示しています。



活動主体のつながり

都道府県下の農作業安全の活動主体と、本マニュアルに表示する「読み手」のマークは、次のような関係になっています。



活動主体によって取り組み・活動の内容は異なりますが、いずれの階層においても、取り組みの目的は農業者個人（『個人』においては自分自身）の事故防止であるといえます。そのような共通の目的の達成に向けて、自治体、JA、生産組合など、さまざまな組織・団体がお互いに協力し合いながら、効率的に進めていくことがポイントです。